

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・体を動かしてみよう。(4歳児クラス) (第1回)

〈テーマの設定理由〉

・「体」を動かすとどのような変化があるか? こどもたちが感じたこと、思ったことを話し合いさらに興味関心を深める。

2 活動スケジュール

【走る】

①ホールで3分間走る。  
②走り終わったら、休憩をしながら「体の変化」で気付いたことを伝え合う。  
※こどもたちから出た意見や気付きを模造紙に記入していく。  
以後、①と②を繰り返していく。

【跳ぶ】

①縄跳びを一分間跳ぶ。  
※こどもたちから出た意見や気付きを模造紙に記入していく。  
以後、①と②を繰り返していく。  
②跳び終わったら、休憩をしながら「体の変化」で気付いたことを伝え合う。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・キーボード

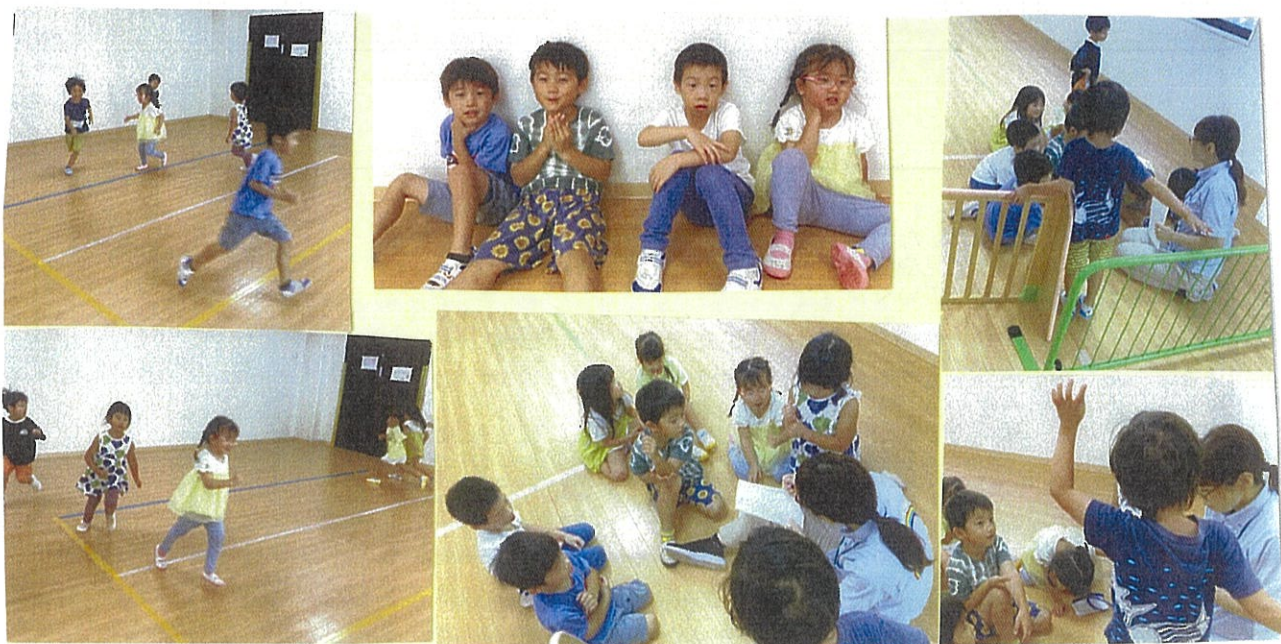
#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

- ①保育者がキーボードを弾き、音に合わせて自由に体を動かしてみる。
- ②保育者が「ジャンプ」「片足けんけん」「スキップ」など声掛けをし、指示に合わせて体を動かすことで様々な動きを知る。
- ③どんな動きがあったか？気付いたことを発表し共有し合う。
- ④自分で音と動きを融合させたり、構成を考えたりしながら自発的にリトミックを楽しむ。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

最初は恥ずかしながら小さく体を動かす姿もあったが、慣れてくると「ジャンプしよう！」「私は寝転んでゴロゴロ」など友だちと会話を楽しみながら取り組んでいた。次に保育者が動きの指示を出すと、「高い音はジャンプに合うね！」「早い音は走りたくなる」など音と合わせることを意識するようになってきた。話し合いでは「音に合わせてから、よく聞かないとね」「耳が大活躍しているね」など「耳」という部位に興味関心が広がっていた。保育者が「耳はどんな働きがあるかな？」と問いかけると、「聞く」「話す」「他にもあるかな？」など機能について探求が芽生えていた。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

今回の活動では、「音」を取り入れたことで「耳」への興味が高まっていた。また、音の強弱、速度などに合わせた、体の動きを知れたことが面白かったようで、保育者に「もう一回弾いて」「速く弾いて」などリクエストをしながら動きを楽しんでいた。「音」を取り入れたことで、テーマである「体」や「体の動き」から、さらに細かく「体の部位」「働き」へと子どもたちの興味の広がりを感ずることができた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・「骨」はどこにあるのかな？（第2回）

〈テーマの設定理由〉

前回の活動で「骨はどこにあるの？」というこどもの探求心から、図鑑を見ながら「骨」についての興味を広げる。

2 活動スケジュール

- ①図鑑を見ながら「骨」の場所を知る。
- ②実際に自分の体の骨を触ってみる。
- ③画用紙に「骨」の絵をかいて自由に表現してみる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・図鑑、画用紙、ペン、色鉛筆

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

- ・少人数のグループで「骨」について調べた。
- ・体の図鑑を見ながら興味を広げていく。
- ・自分の体を触って「骨」の場所を確認する。
- ・画用紙に「骨」をイメージして描く。
- ・図鑑を見て模写しながら描いてみる。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

「骨はどこにあるでしょう？」と保育者が問いかけると、自分の体を触って「腕にあるよ」「足にもあるよ」「全部にあるのかな？」とそれぞれが骨の場所を確認していた。実際に図鑑で調べて、「頭にもあるよ」「人間の体の真ん中には、長い骨があるね」「せぼねっていうんだって」「小さい骨が繋がっているね」などたくさんの気づきがあった。最後に、画用紙に「骨」について分かったことを自由に記録した。小さい骨をたくさん描く子、背骨を描く子、がいつを描く子、骨の絵の隣にハートを描いて「これは心臓」と心臓も描く子など、思い思いに絵を描いて記録していた。その中で、「魚にも背骨があるよね」という面白い意もが出ていた。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

「骨」をテーマに探求を進めているが、人間の体の中心には大きな骨「背骨」があることに気付いたことで、「魚にも背骨があるよ」と人間以外にも「骨」がある生き物がいることに興味広がった。「恐竜の骨は、もっともっと大きいよ!」「骨がない生き物もいるのかな?」など、新たな探求心も芽生えていた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・骨を作って組み立てみよう。（第3回）

〈テーマの設定理由〉

前回の活動で、人間の体にはたくさんの「骨」があり、大きい骨や小さい骨があることを知った。また「背骨」の存在や、小さい骨が連なっていることに気付いていたので、骨で人体模型（がいこつ）の製作を行う。

2 活動スケジュール

- ①小人数のグループに分かれ骨で人体模型製作を行う。
- ②こどもたちの様子や意見を聞きながら材料や道具を追加で用意していく。
- ③それぞれが話し合いながら、好きなパーツを作っていく。
- ④最後に人体型に組み合わせていく。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・空き箱、木工用ボンド、工作用紙、テープ、絵の具、ペン

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

・「背骨は小さい骨が繋がっているんだよ。小さい箱をたくさん集めて！」という男児の掛け声で、背骨作りが始まった。小さい骨をテープや糊で貼り合わせていき、長い背骨が完成した。背骨をベースに、首の骨、頭の骨（頭蓋骨）、腕の骨、足の骨を作成して組み合わせていった。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

製作に取り掛かってすぐに「背骨をつくろう！」という流れができたので、ベースがしっかりとでき、人体模型のイメージができやすかった。またベースがあるので、そのあとは自分が好きなパーツを作り組み合わせるといふ流れも自然にできた。「背骨は小さな骨が繋がっている」「背骨は長いね」「頭の骨は、首の細い骨の上に乗っかっているよ」「指の骨は小さい」など人体の骨についての興味関心が高まっていた。その中で、「動物の骨はどうなっているんだろう？」「昨日食べた魚にもたくさん骨があったよ」など「骨」をもとにさらなる探求心が広がっていった。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

「骨」の人体模型を作成したことで、それぞれの骨の位置や、「背骨」の存在を知ったり、自分の体はたくさんの骨で形成されていることを知った。「僕は骨が折れたんだよ」と骨折のエピソード話してくれたことで、「骨って付くの？」「背が大きくなるから伸びるの？」と骨の性質に興味を持つ様子や、「魚の骨」をきっかけに人間以外の生き物の骨にも興味を持つこどももいた。次回は魚の骨について取り上げていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・「魚の骨」を見てみよう！（4歳児クラス）（第4回）

〈テーマの設定理由〉

活動の過程で、人間以外の生き物の骨に興味を示す会話が出ていた。とくに食卓に並んだ身近な「魚の骨」のエピソードをきっかけに、みんなで魚の解体動画（教育用）を鑑賞する。また、命についても考える時間を作っていく。

2 活動スケジュール

①ホールでプロジェクターを使用し、魚の解体動画（教育用）を鑑賞する。  
②グループごとに分かれて、魚の骨の位置を確認し、どのような仕組みや働きをしているかを話し合う。  
③命について考える。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・魚の解体映像（教育用）、プロジェクター、スピーカー、ホール

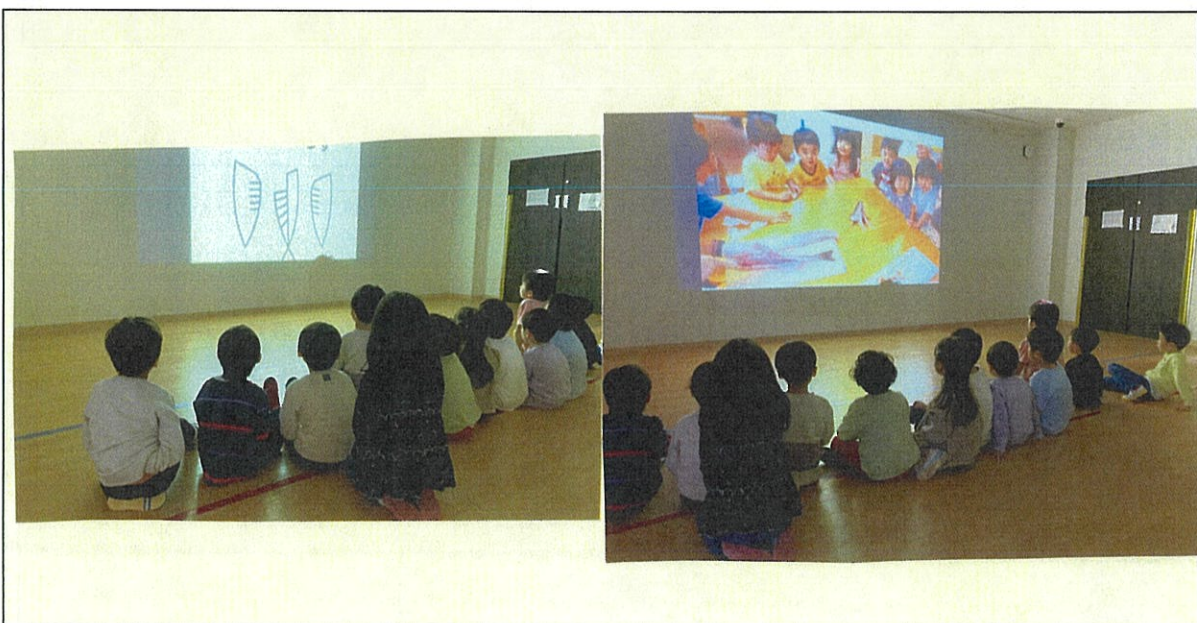
#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

- ・プロジェクターを使い、魚の骨を観察した。
- ・魚の骨を実際に見て、人の骨との違いに気づき話し合う。（大きさ、形、機能など）
- ・命について考える。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

- ・魚の骨を見て、「小さいね」「長くて柔らかそう」「僕たちと同じで、頭と背骨が繋がっているね」「腕とか足とかないね」など様々な発見があった。また、「手と足がないのにどうやって泳ぐのかな？」と新たな疑問も出ていた。保育者に「次は動物の骨も見てみたい」「魚がどうやって泳ぐのか見たい」など興味が広がっていた。観察した後、スケッチにして記録を残しているこどももいた。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

- ・魚の骨を知ったことで、「骨」についての探求が深まってきている。最後に、保育者が命の話をしたが、その時は真剣に聞いており「給食残さないで食べる」と話してくれるこどももいた。しかしすぐに「骨」の話題に変わり、まだまだ「骨」への探求心が強いようである。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・「魚の生態」を観察してみよう。（5歳児クラス）（第5回）

〈テーマの設定理由〉

前回、4歳児の活動では「魚の骨」の観察を行ったが、5歳児クラスでも動物の体についての探求心が芽生えているので、数人グループで「魚の生体」についての動画を観て探求を深める。

2 活動スケジュール

①ホールでプロジェクターを使用し、魚についての動画（教育用）を鑑賞する。  
②グループごとに分かれて、魚の生態や体の仕組みを話し合う。  
③命について考える。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・魚の映像（教育用）、プロジェクター、スピーカー、ホール

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

- ・プロジェクターを使い、魚の動画を観察した。
- ・魚の動画を観て、人間と魚との違いに気付き話し合う。（魚の動き、形、体の機能など）
- ・命について考える

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・魚の動きを見て「どうやって泳いでいるのかな?」「手や足がないけど、ヒレがあるね。」「体をゆらゆらしながら進んでいるね」「呼吸はどうやってるのかな?」などたくさんの気付きや疑問があった。保育者が「不思議がいっぱいだね。?が分かったら教えてね」と声をかけると、図鑑で調べる姿があった。また、分かったことを保育者に伝えたり、絵に描いたりしながら記録する姿もあった。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・魚と人間の違いについて興味をもち、動画で観察することで新たな探求心が芽生えていた。年齢によって探求の広がり方に違いがでることが面白いと思った。魚の生体を知り、発見に喜んだり、疑問に思ったこと自分で図鑑で調べたりと、保育者が次にどうしたらいいのの流れを作らなくても、こどもたち同士で探求に向かうことができている。4歳児と5歳児が混ざったグループでの活動も取入れることも考えていきたい。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・「骨」の動きを知り、実際に自分の体を動かしてみよう。（第6回）

〈テーマの設定理由〉

今までの活動を通して、人間や魚の骨の位置を知り、仕組みや働きを知ることができた。実際に体を動かしてみて、柔軟さや細かい動き意識しながら、みんなでサーキット作りを行う。

2 活動スケジュール

①ホールで「組み立て式レール平均台」や「パネルブロック」を使い、様々な体の動きを体験できるようなサーキットづくりを行った。  
②「跳ぶ」「走る」「バランス」「ぶら下がる」などを意識した設定をする。  
③ 実際に体験しながら、体の動きを確認する。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・レールブロック、マット、巧技台、鉄棒

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

- ・ホールで保育者から子どもたちに「人の体にはどんな動きがあるのか？」を問いかける。
- ・子どもたちから出た「動き」を壁に貼って視覚で分かるように掲示する。
- ・レールブロック等の道具を自由に配置し、「体の動き」を意識したサーキッド作りをする。
- ・自分たちが作ったサーキッドを体験する。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

・子どもたちに「体の動き」を問いかけると「ジャンプできる!」「はしる」「物を持ち上げる」「ボールを投げる」「伸びる」「小さくなる」「ぶら下がる」「見る」の意見が出た。子どもたちから出た意見を、壁に貼り視覚でも分かるようにすると、声に出して読み上げたり、さらに新たな動きを考えて発言する子どももいた。実際にサーキッドを作り始めると、壁を見ながら「ここはジャンプするところ」「ここはバランス」など、それぞれが話し合いながら組み立てていた。完成すると、実際に子どもたちが体験してみると「ここは、こうしたほうがいいよね?」と相談し合いながら修正をする動きもあった。また、「このサーキッド、〇〇ちゃん（一歳児の妹）にもやらせたいな」と女兒が言うと、「え、でもこの形は難しいよ」「それならほし組さん（1歳児クラス）でもできるように作ろうよ」という声上がり、「作ろう!」という声に賛同する流れがあった。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・サーキッド作りでは、様々な「体の動き」を意識して取り組んでいたが、子ども同士で話し合いながら進めていく姿があり、その中で体の動きに関するワードがたくさん上がっていた。その話し合いの中で、ともだちの意見を取り入れながら、修正を加えていくやり取りが面白かった。また、自分たちより小さいクラスの子にも体験させたいという優しい気持ちも現れ「小さい子に難しい」という発達の違いに気付いている意見も出ていた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・自分より小さい子の運動機能を知る（第7回）

〈テーマの設定理由〉

前回の活動で「1歳児クラスにも体験させたい」というこどもの意見から、自分より小さい子の運動機能を知る。

2 活動スケジュール

- ①1歳児クラスに合わせたサーキッド作りを行う。
- ②こどもたちで話し合いながら試行錯誤を加えながら作っていく。
- ③実際に1歳児数名に体験してもらう。
- ④遊んでいる様子を観察して修正をしていく。
- ⑤乳児クラスの子の体の動きで気付いたことを共有し合う。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・レールブロック、マット、巧技台、鉄棒

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

・1歳児クラスに合わせたサーキット作りを行う。  
・実際に1歳児数名に体験してもらう。  
遊んでいる様子を観察して修正をしていき、乳児クラスの子の体の動きで気付いたことを共有し合った。そこで2歳児クラスにも参加してほしいという意見が上がり、続けて2歳児クラスにも体験してもらった。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

・レールブロックを組み立てながら「この高さはどう?」「高くて怪我しちゃうかな」など友だちと相談しながらサーキット完成させていた。1歳児が実際にサーキット遊びを始めると、周りで観察しながら「もっと、低くしたほうがいいね」と修正する姿もあった。危ない箇所は、手を繋いだり近くで見守ったりと思いやる姿も見られた。保育者が「ありがとう」と声をかけると「だって、ほし組さんは体も小さいし、まだ歩くのも上手じゃないんだよ」と教えてくれた。その後の話し合いでは「つき組さんにもやってもらいたい」という声が上がると、2歳児数名もサーキット遊びを楽しんだ。「つき組さんは、もっと難しくてもいいかもね!」という意見が上がり修正をしながら2歳児の発達にあったサーキットを作っていた。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

前回のこどもたちの「乳児クラスにも体験させたい」という意見からの活動だったので、こどもたちも張り切って意欲的に取り組んでいた。やはり、こどもたちからの意見を発展させていくことの大切さを改めて感じた。また、自分たちの体の動きと、乳児クラスのこどもたちの様子から、発達違い気付いたことから「思いやる気持ち」が芽生えていた。

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	東京都江東区東陽2-2-14シティテラス東陽町
施設名	マミー保育園東陽町

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

・音に合わせて体の動きをみんなで確認してみよう。（第8回）

〈テーマの設定理由〉

キーボードの「音」に合わせて、いろいろな体の動きを楽しむ

2 活動スケジュール

- ①キーボードの音に合わせて自由に体を動かす。
- ②保育者の声掛けに合わせて体を動かしてみる。
- ③どんな動きがあるか？気付いたことを話し合う。
- ④いろいろな気づきを踏まえたうえで、音に合わせて体の動きを考えながら楽しむ。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

・キーボード

#### 4 探究活動の実践

##### 〈活動の内容〉

- ・「体を動かすとどうなるんだろう？」と体を動かす前に聞いている。
- ・実際に走ってみて体の変化を実感する。
- ・たくさんの気づきについて話し合う。

##### 〈活動中のこどもの姿、声、こども同士や保育者との関わり〉

保育者からの「走るとどうなるんだろう？」の問いかけに、「疲れる」「楽しい」といった気持ちの面での意見が多く上がる。実際に2分間走行を行うと30秒経過したころから、走行の途中でも気づきが始まった。「先生、暑い」「転びそうになった」「息が苦しい」など上がった。その後、2分間走行し終えて、休憩しながら感想を聞くと、「暑い」「胸がドキドキしている」「息が早くなってる」という気づきがある。2ラウンド目時の休憩では、「汗が出てきた」「転びそうになる」「喉が乾いた」という気づきがあった。たくさんの気づきの中で「転びそうになった」というAちゃんに、「転ぶと骨が折れるんだよ」と自分の骨折経験談を話すB君。その会話を聞いていたC君が「骨ってどこにある？」というと、みんな自分の体の骨を触って確かめ始める。



#### 5 振り返り

##### 〈振り返りによって得た先生の気づき〉

・活動の前に、こどもたちに「体を動かすと体はどうなるか？」予測させると、「楽しくなる」「疲れる」「気持ちいい」など、体の変化より気持ちの面での予想がたくさん出てきた。「体はどうなるかな？」と分かりやすく聞いたが、「分からない」と言っていた。こどもたちの記憶は、「気持ち」「感情」が優先的に記録され残っていくのだということが分かり面白かった。また、今回の4歳児グループは、体の変化を予測するのは難しいが、実際に体で起きていることにはたくさん気付いていた。また、気づきから話し合いを深め、興味を発展させていくこともできていた。今回、たくさんのキーワードが上がり、どのワードも追求したくなるものばかりであったが、こどもたちの会話にもなった「骨」に注目して追求していこうと思う。※出てきたワード:汗、体温、心臓、呼吸、骨、喉の乾き、筋肉